

編集後記

本年度より広報委員を務めさせていただくことになりました。日本社会福祉学会の会員数が伸び悩んでいる中で、広報委員会の役割の重要性を感じています。

本号では、新体制になってからの新たな企画として、日本社会福祉学会の理事を長く務めてこられた方々に、社会福祉学の今後のあり方、若手研究者へメッセージ、学会のあり方に関する示唆などをご執筆していただく「シリーズ これからの社会福祉学に期待すること」を開始しました。第1回は、山縣文治先生に「家族観再考の必要性はあるか」というテーマでご執筆いただきました。子ども家庭福祉分野のみならず、他分野においても「家族のあり方」は重要な位置づけとなっており、多くの示唆を得られると思います。

2020年度の学会賞は、学会賞審査委員会による審査の結果、学術賞（単著部門）として鈴木浩之会員、奨励賞（単著部門）として大嶋栄子会員が選ばれました。本号では、学会賞を受賞されたお二人の喜びの声を掲載しております。

地域ブロック情報としては、「関西地域ブロック」と「中国・四国ブロック」の活動について紹介していただいています。学会の裾野を広げていくためにも各ブロックの活動はますます重要になってくると思います。このような地域ブロックの活動も含めて広報委員会では多くの情報を発信していけるよう取り組んでいきます。学会員の皆様からのご提案やご要望もお寄せいただければ幸いです。よろしくお願いたします。

石田 慎二（帝塚山大学）